特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会 会報 第76号
2016年 １１月 ２日発行

本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。
･･･会員随時募集中！･･

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX： 0467-47-1164
木曜を除く 10 時～16 時 Web URL：http://yato-yamasaki.sakura.ne.jp/
E メールアドレス：ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

アドレスが変わりました

ロゴマーク決定！

会員さんより楽しい作品をお寄せいただきました。事務局の厳正な選考により、富田昭子さんの作品に決定し、お礼の「谷戸味わいセット」をお渡しします。応募いただいた皆様ありがとうございました。

ホームページリニューアル！

活動をたくさんの人に親しんでいただこうとホームページを新しくしました。班活動を中心とした会員の様子や会員以外の皆さんで賑わう谷戸の日々を紹介します。活動予定、会報バックナンバー、山崎の谷戸の昔の風景や季節もご覧いただけます。

地震に台風と立て続く天災に遭遇された北や南の被害地域に比べて、今のところとりたてて災害に遭っていない私たちは申し訳ない思いですが、おかげさまで順調な収穫期を迎えています。これからの農閑期は決して暇ではなく、農作物の加工作業、谷戸のあちこちの修復作業に追われます。今では珍しい光景に加わってみてください。

秋の谷戸まつり （詳細はp4）

11月27日(日)10時～ 野外生活体験広場

もくじ

☆各班からのお知らせ→２・３ｐ ☆谷戸の自然だより→ｐ４ ☆谷戸往来→5ｐ ☆10 周年記念フォーラム座談会③→６～９ｐ ☆谷戸の体験学習→10・11ｐ ☆11～1 月日程表（裏表紙）

各班からのお知らせ

田んぼ班

★11/3(木・祝)籾干し・はさ片付け ★6(日)籾干し・溝切り・畔土寄せ
★12(土)、13(日) 、20(日)籾すり・精米・わら切り

最初は雨にたたられましたが、予定通り10/8から翌週まで、４日間で稲刈り完了しました。天候のせいか実入りが少なく小粒ですが、平年並みの収穫といったところでしょうか。

月末には脱穀をし、谷戸まつりの提供に向けて、籾干し・籾すり・精米と作業が続きます。

今年の稲刈りでは、久しぶりにカヤネズミの巣を発見しました。また、稲から麹を採取しました。※

自然の営みに触れながら、田んぼの維持をしています。

10/９ 稲刈り

※稲麹・・・稲の穂に自然につく麹菌

畑班

★11/6(日)たのくろ豆の収穫・吊るし干し ★13(日) さつまいもの洞入れ
★20(日) さといも掘り・洞入れ

10/16 さつまいもの収穫

温暖化と言われて久しいですが、これほど雨量の多いシーズンは、ありませんでした。

しかし悪いことばかりではなく、たっぷりの雨量のおかげで、さといもの出来は上々です！ねっとりとしたおいしいさといもに育ちました。谷戸鍋の主役です。そして谷戸まつりに向けて、今は大根、にんじん、ねぎの育成に精を出しています。

雑木林管理班

★11/6(日) 雑木林の下草刈り★13(日)雑木林を歩いて調査
★20(日) 雑木林の除間伐

９月の台風の影響で、土砂崩れなどの大きな被害はありませんでしたが、立木が何本か倒れているようです。

谷戸は鎌倉石の上に表土が載っている地形が多く、樹高に見合った根がしっかり張れないことが一因なので、特に斜面の木々は倒木となる前の適切な時期に、除伐が必要となります。今年も雑木林の手入れの本格的な作業に先立ち、木々の状況を確認し除間伐の計画を立てる予定です。

9/4 アズマネザサの除去

10/5　小麦の選別・製粉

農芸班

★11/25(金) たのくろ豆の殻出し

谷戸に伝わる手製の道具「さいづち」や、足踏み脱穀機を使って、味噌作りに欠かせない「たのくろ豆」の殻出しを行います。乾燥したさやの皮がはじけて、たのくろ豆が飛び出してきます。取り残しはないか、枝全体を振って確かめます。カラカラと、かわいい音が聞こえてきたら、要チェック。本田脇の畑や田の畔で、大切に育てられた恵みを、１粒も無駄にしないように取り出します。

自然遊び班

雨が強く降りしきる中、谷戸に集合。「里山探検隊（9/11）」は草木染めを行いました。クズを採集し、葉を洗ってから、ミョウバンの入った鍋に入れて煮ます。その間、絹布に輪ゴムを巻きつけ、絞りの模様が出るようにしました。煮出した鍋の中に絹布を入れ、昼食を食べ終わるころにクズの草木染めが完成。たった一つの自分だけの草木染めができ上がりました。

「こども里山一日体験（10/23）」に、30名ほどの家族が参加し、さわやかな秋空の下、さつまいも掘りを行いました。つるをカマなどで切り外し、大人がスコップを土に入れ、子どもたちが手で掘り返しました。20 センチ以上もあるさつまいももあって大豊作でした。その後は谷戸散策。お昼には、蒸かしいもができ上がり、とれたてを味わいました。＜感想＞★もようをつけるのが楽しかったです。（４年井上真悠子）★さいしょ、（クズを）おゆにいれてすぐおいものにおいがしたからふしぎだった。（１年かさいゆり）★おいもほりもたのしかったし、おいものつるであそんだのもたのしかったです。（3 才）★自分たちで掘ってふかしたお芋がとてもおいしかったです。★家から近い環境にこういった自然や畑があることに改めて感動しました。★谷戸の奥の方まで自然観察に行けて、初めて見るものがたくさんありました。親だけではなかなか体験させてあげられないことができて、とてもよかったです。

☆父と子の里山体験　11/13(日)　「つるブランコ作り」
対象：4歳以上の未就学児の親子　定員：10 組　参加費：500 円/1 組（会員以外の方）

生態系保全班

★ 11/2(水)カヤネズミの巣の調査
★ 12/7(水)カエルの産卵場所の整備

野鳥観察がしやすい季節がやってきました。モズの声が谷戸に響いています。

今年は和綿が育たず、畑が雑草で覆われてしまいましたが、裸地が必要な野鳥のために、畑の状態を維持したいと思っています。

手入れをしているとき、オオスズメバチがクモの獲物を奪っている姿を観察することができました。

オオスズメバチ

植物育成班

★ 12/21(水)オギ原の刈り込み作業

カナムグラの根３年もの

カナムグラの除去作業を引き続き行っています。効率のよい除去方法は、根っこから抜くことのようです。１年草といわれていますが、宿根化したものもあるようで、その根っこは、親指ほどの太さがあります。カナムグラなどのツル植物を除去した後には、ツリフネソウやミゾソバ、土手にはワレモコウなどの花がきれいです。

10/12　カナムグラの除去作業

谷戸の自然だより

～ 生態系から観た、里山の手入れ　谷戸の田んぼ　その４ ～

●里山の生きものたちの「かけこみ寺」

半世紀前は谷戸全体が田んぼでしたが、当会でお世話している田んぼが、最後となってしまいました。生きものたちにとっては、この田んぼが「かけこみ寺」になっている感じがします。この面積の田んぼで守れるものと守れないものがあると思いますが、30 年近く見てきて、小さな生きものたちはかなり守られていると思います。

シオカラトンボ・メス

●稲刈りで出会う生きもの

稲刈りをしていると、意外に多くの生きものが稲にくっついているのに気がつきます。田んぼが多くの生きものの棲家である証拠です。メイガのマユや幼虫、イナゴ、チョウセンカマキリ、ナガコガネグモ、昔はカヤネズミの巣もよく見つかりました。稲の害虫として知られるメイガのマユは、年によって多い少ないがあるようですが、谷戸の田んぼでは大きな被害になったことはありません。天敵のカマキリやクモが活躍しているからでしょうか。谷戸には５種類のカマキリがいますが、田んぼにいるのはチョウセンカマキリばかりのようです。周辺の草むらにはオオカマキリが多く、はっきり棲み分けているのに気が付いたときは驚きました。チョウセンカマキリはオオカマキリより細身なので、稲の葉に紛れるのに適しているのでしょう。「もしかして稲作と一緒に渡来した昆虫なのかも」と想像しています。イナゴ（コバネイナゴ）がたくさんいる場所は、今の鎌倉では数カ所になってしまいました。その中でも一番多いのはこの谷戸でしょう。イナゴは稲がないと生活しにくい昆虫のようなのです。ナガコガネグモは大型で縞模様があるクモで、田んぼに網を張りシオカラトンボを捕まえています。林の近くではなぜか全く見つかりません。田んぼと周辺の草地を主な棲家にしているようです。カヤネズミは、県内で絶滅危惧種に指定されている日本最小のネズミで、市内では谷戸（鎌倉中央公園と台峯）の周辺が最後の生息地かもしれません。田んぼではあまり見かけなくなりましたが、周辺のオギ原ではまだ少数が見つかります。谷戸の田んぼに生きものが多いのは、無農薬という理由だけでなく、周囲に豊かな自然があるためでしょう。そして昔から棲みついている生きものが今年も受け継がれていると思うとほっとするのです。

●稲刈りの終わった田んぼで

山で夏を過ごした赤トンボ（アキアカネ）たちが、谷戸に戻って来るのは９月のお彼岸のころです。最初は谷戸の上空高くに群れがやって来て、田んぼ周辺の柵などに止まって産卵のチャンスを待っています。稲刈りが終わると、田んぼの水たまりで一斉に産卵が始まります。トンボは水面の反射で水があることを知り産卵するので、稲刈りが終わらないと産卵しにくいのでしょう。また、シオカラトンボは湿地の小さな水たまりでは産卵せず、広々と開けた田んぼがお好みのようです。また池ではあまり産卵しないようですし、池では幼虫が育ちにくいのです。一般的な田んぼでは稲刈りになると水を抜くので、乾いた田んぼでは産卵できません。谷戸の田んぼのように、一年中、水がある田んぼなら、稲刈り後も産卵しやすいのでしょう。

鎌倉中央公園フェスティバル第２弾（協働開催）

秋の谷戸まつり開催

11/27（日） 10時～14時（荒天中止）野外生活体験広場

炊き出し（谷戸鍋･餅･ご飯）引き換え券頒布開始 11 時

展示・紙芝居上演・頒布（新米など）・体験コーナー

お椀、お箸
ご持参を！

谷戸往来

谷戸往来　谷戸往来

市内保育園の保育士講座を開催

水路の草刈り

9/3(土) 毎年恒例になっている保育士講座が、９園 14 人の方の参加で実施されました。午前中は子ども達がよく遊ぶ水路の草刈り、午後は映像も使って、鎌倉の自然、谷戸の自然環境、谷戸でのマナーなどの座学が行われ、みなさん熱心に取り組んだことが感想からもよくわかりました。**【感想】**★子どもが好きな自然は生きものが多い場所であること。生きものが多い自然を守るためにも、大人が自然と共存するマナー、生きものの扱い方の知識をしっかり持ち、子ども達に伝えていかなければいけないと感じました。（岡本保育園・野口）★「自然の保全」は簡単ではないんだなと驚いた。とんぼが水面を見つけられるように草を刈る、子どもが草むらや水路に抵抗なく入れるように草を刈ることの大切も知りました。（保育園みつばち・石川）★鎌倉の自然について改めて深く考えることができました。（うちゅう保育園かまくら・湯浅）

農具をご寄付いただきました

当会が誇る冊子『かまくら・山崎　谷戸と暮らし』の聞き取り取材で大変お世話になった梅澤義雄さんから、山崎の谷戸で耕作されていたころからの農具の一部を譲っていただきました。大釜、むしろ、農作業の資材などを、トラック２台で公園協会の協力にて運搬しました。道具はどれもずっしりと立派なもので、昔から使われていた時間の重みを感じます。大切にこれからの活動に活かしていきたいです。

「60 歳からの男性のくらし学」を開催

10/12(水) 教養センターが初めて開講する全 20 回の年間講座「60 歳からの男性のくらし学」の 16 回目「環境美化について考える」を当会で担当しました。当日 17 名の参加があり、疎林広場に案内し、さつまいもの収穫と畑周りの枝切りなど、谷戸の畑では普段できない作業をやっていただきました。掘りたての蒸かしいもを試食し、当会の活動も知っていただくことができました。

受講生のみなさん

深沢小学校ふれあい広場に協力

10/22(土) 地域を巻き込んでのＰＴＡ主催行事に、谷戸のたのくろ豆で作ったずんだ餅を 500 人分用意し、多くの子ども達に味わってもらいました。ずんだは、事前にＰＴＡの方達が谷戸で調理したもので、作り方を紹介するパネルも用意する力の入れよう。お父さん方の餅つきも迫力満点で、子ども達の餅つき体験も早々に申込を締め切るほど好評でした。

100 人が餅つきを体験

谷戸の昔、今、そして未来へ～第３部 協働を深める その3

コーディネーター 志村直愛氏
（東北芸術工科大学建築・環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科教授）
鎌倉市都市整備部 小礒一彦部長
鎌倉市公園協会 土屋志郎常務理事
山崎・谷戸の会 相川明子理事長
同 黒川美加事務局長

（志村） 逆にちょっと質問したいんですけど、スタッフの方が多いと思いますが、さっきのビデオを見ているかぎり、「活動も立派だし、すごく素敵にできてるし、いいじゃないの、素敵ね。私も今度は行きましょうか」ってなりますよ、これ。だけど、スタッフは結構大変なんですか？
（黒川） 事務局員は１日１人出ていますけど、それ以外にもものすごく、ひっきりなしに出入りしています。今回の資料にしたってそうですけど、活動コーディネート、体験学習の先生方と連携を取るのもそうです。行政に足を運んでのいろいろは、すべてにおいて無償のボランティア。そういう中で紡がれて、やっと運営していっている状態です。
（志村） そういうご苦労が影になる側面があるので、辛いなという部分もあるんじゃないかなぁ。
（黒川） 辛いっていうちょっと違うかもしれないですね。「大変だよね」って言いながらも楽しいんです、あはははは。私はそう言っている仲間がとっても嬉しいんです。
（志村） でも、そうですよね。辛かったら辞めますよね。でもちゃんと続けてらっしゃる中で、辛いんだけどその中に、ここに楽しさがあり、喜びがあり、というところ。比較するわけではないですが、その魅力は絶対この活動の中にあるということなんでしょうね。そこを上手にいろいろな人に見ていただけるといいなと思うんですけれど。さぁ、これを今度、指定管理としてね、行政の立場としての大変さ、難しさもあるかなと思いますけど、どうでしょうか？

ＮＰＯの課題は財源基盤、継続性、横の連携

（土屋） 指定管理者側から、ひとつは相川さんがおっしゃっていた、鎌倉中央公園の名前の話。ネーミングではなくて、場所の確保がボランティア活動のキーなんです。場所がなければボランティア活動はできない。私は緑の専門ですので、都市計画制度を使って場所を確保していく、土地を担保していくということが大前提にあります。その時公園という制度を使った時には、バランスのいい公園をつくらなきゃいけない状況の中で、10 年ぐらい一緒に議論していたという経過があった。そういう意味で時間がかかることも含めて、「場所はちゃんと確保したんだよということをお互いに認識しましょうよ」ということがとても大事なんだろうなと。

もうひとつは黒川さんがおっしゃっていた財源基盤です。これはもうどこのＮＰＯも大変苦しんでいます。広町の団体と協働で広町の指定管理者の応募をしたわけですけど、その時も、候補を選ぶ時に、選考委員の先生方は市民の会の財源基盤の脆弱性を指摘されたわけですね。

ボランティア活動を見ているともうひとつ、相川さんのところはうまくいっていますが、作った

当初は熱心でぐっと盛り上がるんだけど、次の世代に引き継ぐ継続性の問題をどうするかでしょうか。まぁ、「谷戸の会」にひとつ大きなヒントがあるんだろうなという気がします。

もうひとつは、ボランティア同士の横の連携をどうするか？　いくつも環境関係のＮＰＯ団体が鎌倉にはあります。いくつか連携しているのは間違いないとわかりますが、もっと大同団結をしていって、もっと情報交換をして、場合によっては会員の交流をしてということもあろうかと思います。そういったものが、これからの課題なのかという気がします。

（志村）　そうですね。無い袖は振れないお金と人材ですとかですね。そういう継続性、時間ですよね。やっぱり、子育ての話じゃないですけど、継続に急いじゃうと大変だし、それから続けていくことの難しさとか。子どもは小さいうちはいいですけど、大きくなってから子どもが継いでくれればいいんですけど、自分の一生のステージの時間の中で関われる時間とそうでない時間があるのかもしれません。そういう意味では非常に難しい。人生そのものみたいな…。公園の持続ないし、こういう谷戸の自然を守っていく持続性みたいなものは人生のような「生きもの感」がすごくあるなぁ、という気が非常にしました。それから、広町さんとか、台峯さんとか、市内でそういうところがたくさん出てきて、そういうグループがいらっしゃるということでその可能性みたいなものに触れていただきました。なんかこう、よい面とか可能性とか、ちらちらあると。そこをどう束ねていくかというのが３つ目の課題ですね。小礒さんどうですか？　難しさ、問題、立場では？

市民、行政、お互いの思い込みをどうやって埋めていくか

（小礒）　先ほど、相川さんがおっしゃっていた立場の違いからくる思い込みの発想。これは我々もまったく同じように感じています。お互いに思っていることはほとんど変わらないんだけど、ちょっと視点が違ったりしてバッティングするなんてこともあります。それは今の感想ですけど、難しさってやっぱり、「中央公園」という言い方と「山崎・谷戸の会」という言い方の違いってことだと私は思っています。つまり、行政は法令ですとか予算に縛られていますから、できる範囲が決まっているんです。その範囲で指定管理者にもお願いしていますし、指定管理者と一緒にやっていただいている「谷戸の会」もあり、我々はその範囲でしかできません。ただこれは、「谷戸の会」だけではなくて、一般的に市民協働で行政の仕事やっていただくとなると、すごく自分たちの思いが大きいのでもっと広く捉える傾向があります。私は前職が市民活動部長だったので、市民協働もやっていましたが、市民協働っていうのはこれからどんどん進めなくてはいけないと思うんですが、行政の範囲と市民協働で一緒にやろうとしているＮＰＯの方々との思いの違いが出てきてまして、いつもバッティングするところがあったなと思っています。そこを埋めるのが、先ほどの相川さんの思い込みの発想というところをうまく埋めていくことで解消できるのかなというように思います。おそらくそういうことなんじゃないかな。市の職員において市民協働の必要性は十分にわかっているのですが、まだまだ薄い部分もあります。逆に、ＮＰＯ団体の方々は市民協働の思いが強すぎたり、そういうところがもう少し埋まっていければいいのかなと思います。そういう中で、鎌倉中央公園の「谷戸の会」のみなさんとやっている事業は理想までもいかないけれど、かなり深まった市民協働になってるんじゃないかと私は思っています。ただ、いくつかの課題

をおっしゃっていましたけど、長い時間をかけて、行政と「谷戸の会」のみなさんが話をして、お互いに思い込みの発想が、段々段々縮まって、ほとんど同じようなところに立って話ができているんだと思います。やはり、これは長い時間かかってやっとここまできたのかなって思いますけど。行政のできる範囲とＮＰＯ団体のみなさんのやろうと思うところをどうやって埋めていくかが大きな課題だと思っています。

（志村）　ありがとうございます。協働は共働っていうふうに書いてあります。一緒にやるんで、どっちかが、どっちかに対して強すぎる強弱っていうのを、ある程度バランスっていうのがあるんですけど、ちゃんとお互いのことを思い合いながらいかないと、ちゃんとした協働にならないと思うんですね。つまり、市民側が行政に要求するだけ要求するっていうのも違うし、行政が市民を安く使っちゃってますよね。安いし便利だしっていうのも違うし。非常にバランスが難しい側面があるんだけれど、少なくとも今回こうやって 10 年間お互いに市民グループと行政っていうのが一緒にやりながら、まー、お互いいろいろ、けんかされたり、できること、できないことで苦労されながらやってきたけど、とりあえずここまでやってきた、やってきていることにバランスのよさというのを感じます。両方からご指摘があったように、ただもうちょっと、もう少し気を付けていかないと大変だぞ、このままじゃ無理よっていう側面も見える。それをね、やはり探して埋めていかないといけないんじゃないかというところが、今の大きな課題なのかなと思います。

　そういう中で最後のステージになります。じゃあ、ここから先、未来に向けて必要なことは何だろう。これもお互いのことを思い合いながら、感じて、考えて出していただけると思いますけれど、相川さんどうですか？　これから何が必要だろう。自分たちに必要なこともあるし、行政にも必要なこともあるし、協会にも必要なことがあるのかなと思うんですけど、どうぞ。

ＮＰＯの財源確保が難しい業界、知恵を出し合った財源基盤作りを！

（相川）　先ほど、志村さんが「女性が多いね」って言われて、女性が多いのは確かにうちの会の特徴で、とても和やかに会の中でトラブルがなくっていうのは、やっぱり女性の特徴として自分がトップになりたいと思う人っていないんですよ。今日のいろんなこと全部やってくれたのは事務局員で、ほとんどが女性です。みんなと楽しくやりたい、自分がやれるところはやる、自分がやれないところは他の人がやってくれる、一緒にやると今日みたいな素敵な装置ができる。それを楽しむっていうのが女性の特徴で、うちの会が和やかでいられるメリットなんですけれど、どうしてあの事務局員の写真（会報 72 号表紙）が、40 代ぐらいの女性中心かと言ったら、やっぱりあそこで食べていかれないからですよ。あそこに 40 代の男性がいたって家庭は成り立たないというわけですよ。それで果たしていいのかと。ＮＰＯで食べていければいいのかっていうとそうではないかもしれませんが、私はいろいろな業界を見ていると、緑環境っていうか、環境保全の業界では、ＮＰＯってとっても、賃金というか、謝金というか、人件費っていうんですか、そういったものが一番低いんじゃないかって。他の指定管理者の建物を運営しているところなどでは、もうちょっと確保されているなと思います。

　それからもうひとつ私が気になっているのは、どこの公園でも建設する時はいろいろな補助金とか、大量の金額が投与されて立派な物ができるけれど、10 年後にそれを維持できるかといったら、どこもみんな傷むわけです。鎌倉中央公園を見ていただいたって、公園協会の前にある木道は当然、朽ちたりするわけです。でも、それを補修することに、公園協会の方が財政難で苦労してますし、

私たちが管理して任されている田んぼの周りの柵なんかもそうです。でも、ほんのわずかな予算の中で、鎌倉市はとっても頑張っているのを私は評価したいんです。私はその昔から、神奈川県、神奈川県以外のいろいろ公園を見て歩いていますが、「こんなに素敵な谷戸がどうしてこんなブロックの塀や階段になってしまうの？」っていう、擬木のものがどんどん増えているんですね。そこを管理しているＮＰＯに聞くと「市はこれしか予算がないって言うから」って。でも、鎌倉市では、とても頑張ってるのがわかります。「これから、私たちの後にできてくる広町だって、台峯だって、そんなこと絶対許さないって言ってるよ」って。だから、そこは鎌倉の誇りであり、市民活動の強さであり、そのよさを是非つなげていっていただきたい。だって 25 年前は「谷戸？　それなに？」って言うんでしたけど、今は「里山」という言葉が、世界的な用語になっているわけです。「里山保全」って、この自然がどんなに大切か。これがほんのわずかになってきたからこそ、大切なんではあるんですけども、それが認識されてきている中で、鎌倉市の行政は私たちのようなＮＰＯを持っていることと、メンテナンスをきちんとやっていることを誇りに思って、これからもやっていただきたいと思います。

（土屋）　継続性の問題については相川さんの言うように智恵を借りるんですが、財政につきましては我々も指定管理者なので、与えられた範囲の中でやりくりしていく。これからどうするのっていう話になっていくと、自主事業を広げるしかない。要するに、下世話な言葉で言いますと「公園で金稼ぎましょうよ」「自由に少しやらせてよ」。これが本来の指定管理者の目的だったはず。一方では財政負担を少なくするというのが目的かもしれないけど、もうひとつでは、そこの場をちゃんと活かしていきましょうということ。例えば、山下公園では子育て支援のローソンが入ってきている。富山の方では一時保育施設が公園の中に入ってきている。新しい時代がどんどん公園の中に入ってきている。横浜の指定管理者は保育関係、ブライダル関係を自主事業にして展開している。要するに国の方でも「公園マネジメント」という言い方をして、検討会を設置して、そういうマネジメントの中間報告がありましたけれど、まさしく、マネジメントの時代に入ってきている。ということですので、これは我々ではできないですので、鎌倉市の方とも連携をしながら、マネジメントの考えをどんどん取り入れて、財源を豊かにしていかないとできないなと思う。

　とはいえ、自主事業やったら指定管理料を減らすということになると、何も頑張る必要がなくなっちゃって、それはできないだろうな。そういったことを含めて、我々が持っているいくばくかの運用資金としてお渡ししていくという形ですから、ぐるぐるまわりの話の中で、少しでも財源基盤をお手伝いできればということが方向性としてはあるのかなぁ。まだまだ法的な課題もあるので、一朝一夕にはいかないと思いますが、我々としましてはその辺かなぁと思いますね。　（つづく）

●次号（会報77号）は2017年1月に発行予定●

11月の予定

2（水）　***カヤネズミの巣の調査　＊***
3（木・祝）　籾干し・はさ片付け
6（日）　籾干し・溝切り・畔土寄せ
たのくろ豆の収穫・吊るし干し　（塾）
雑木林の下草刈り
青空自主保育にこにこ会　保全活動　（外）
9（水）　かまくらママ‘sカレッジ「サトイモとどろんこ」（外）
一日冒険遊び場　（外）
12（土）　籾すり・精米・わら切り
13（日）　***籾すり・精米・わら切り　＊***
さつまいも洞入れ
雑木林を歩いて調査＊
父と子の里山体験「つるブランコ作り」（参）
PHD（アジアの草の根NGO）来訪（外）
16（水）　**市職員研修**　（外）
20（日）　籾すり・精米・わら切り
さといも掘り・洞入れ　＊
雑木林の除間伐＊
25（金）　***たのくろ豆の殻出し・選別＊***
27（日）　**秋の谷戸まつり　10時～14時**

12月の予定

2（金）　**東京シニア自然大学**（外）
4（日）　落ち葉かき　（塾）
たくわん大根の収穫・洗い・干し　（塾）
雑木林の除間伐　（塾）
里山探検隊「むしろあみ」
7（水）　カエル産卵場所の整備
11（日）　落ち葉かき・苗床耕し・土ふるい　（塾）
落ち葉かき・堆肥作り
雑木林の除間伐＊
18（日）　会員親睦会
籾殻くん炭　＊
畑の整備
間伐材整理＊
（塾・講座）　**正月飾り作り**
21（水）　オギ原の刈り込み作業
たくわん漬け＊
25（日）　雑木林の除間伐

1月の予定　（次号で再確認してください）

8（日）　籾殻くん炭・堆肥切り返し
麦踏み・畑の整備・見回り　＊
雑木林の調査・測定　（塾）
14（土）　**春の七草とどんど焼き**
15（日）　***籾殻くん炭・堆肥切り返し＊***
堆肥場の整備・荒起こし
竹の伐採　（塾）
青空自主保育　にこにこ会　保全活動（外）
22（日）　籾殻くん炭・堆肥撒き　（塾）
落ち葉かき・堆肥作り
雑木林調査・測定＊
アシ原の野鳥を探そう＊
里山探検隊「紙漉き・1」
青空自主保育　やんちゃお　保全活動（外）
25（水）　オギ原の刈り込み作業
（塾・講座）　**昔の谷戸**
29（日）　***籾殻くん炭・堆肥撒き　＊***
小麦の草取り・土寄せ　＊
木障切り＊
青空自主保育　なかよし会　保全活動（外）

（塾）・・・谷戸塾　（外）・・・外部受入れ

（参）・・・会員以外の方 参加費500円
4歳以上～小学生までの親子1組

谷戸の体験学習予定

深沢小5年「谷戸田の米作り」12/19
富士塚小5年「谷戸田の米作り」12 /7
ひだまり「昔ながらの畑」11/15、12/1、1/18

里山探検隊
定員に達しましたので申込みを締め切りました。

各班の活動時間

田んぼ班：9:30～15:00（5年生以上）
畑班：9:30～12:00（午後作業の場合あり）
雑木林管理班：9:30～15:00（中学生以上）
農芸班：10:00～15:00
自然遊び班：10:00～14:00
生態系保全班：9:30～15:30
植物育成班：9:30～15:30

▼ 作業できる服装（軍手や長靴等着用）で、農家風休憩舎に集合して下さい。

▼ 小雨決行ですが、悪天候の場合は各自でご判断ください。
また、活動内容は天候その他の理由で変更されることがあります。

▼ 非会員の方は、***太字＊***の活動に電話予約の上、参加できます。

▼ 事務局では、木曜を除く平日にも園内パトロールや谷戸保全活動を行っています。参加ご希望の方は、お問い合わせください。

☆☆☆☆☆☆☆☆**会員登録した班以外の活動にも参加できます**　☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆　**会員随時募集中！**　☆☆☆☆☆☆☆

年会費…正会員2000円・準会員1000円（正会員の大人家族）　会費年度は4/1から3/31　郵便振替口座番号…00270-6-115647　特定非営利活動法人　山崎・谷戸の会